

平成 20 年度学校評価について、概要と結果を簡単にご報告します。

- * 学校評価の標本数は、教員 49 事務職 6 の合計 55 であったが、評価分析に当たっては教員の 49 を用いました。
- * 学校評価の大項目として、①学校運営 ②教育内容 ③生徒指導 ④特別教育活動 ⑤教職員研修 ⑥生徒募集とし、これらの各項目を、中項目・細項目に分け、合計 47 の細項目で学校評価を実施しました。中項目として、①においては教育課程、教職員の連携、情報公開、危機管理、地域に開かれた学校づくりなど、②では人権教育、支援教育、環境教育、授業など、③については、生徒指導、生徒支援、進路指導、欠席過多、退学生対策など、の項目を設けました。細項目ではそれぞれについて、保護者との連携はとれているのか、学校だよりやホームページによる情報公開ができているか、教員は授業の事前研究ができていかなど、教職員の日々の活動の中でそれらについてどう感じているのか、どう思っているのかについて回答を求めました。
- * 回答は、「よくあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」「わからない」の五つから選ぶ形とした。
- * 回答集計から、「あてはまる」と肯定するもの（標本数の 50% 以上）、「あてはまらない」と否定するもの（標本数の 50% 以上）、どちらにもあてはまらないものに分け評価を行いました。

「あてはまる」が高い割合を占めるのは、

年間教育指導計画に沿って授業が進められている。

学校の様々な情報が「学校だより」やホームページ、学級通信等で保護者に伝えることに取り組んでいる。

地域との交流や学校開放も実施できている。

人権教育にも取り組んでいる。

生徒指導では保護者と連携を取りながら組織的に対応するようにしている。

カウンセリング体制が機能している。

進路指導における保護者との連携を取るように努めている。

生徒会活動やクラブ活動を通して生徒が主体的に活動できるように指導している。

などがあげられる。生徒に直接関わる項目では「あてはまる」と肯定するものが高い割合を占めました。
「あてはまらない」が高い割合を占めたのは

教職員研修への参加や成果の共有といった面など、学校内部の運営や教育体制、教職員の連携に弱点があることが判りました。

* 上記のことをふまえ、今後、学校の諸問題の改善や良いところの伸長を図っていくことになっています。